

学校だより

令和6年9月27日(金) 第6号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>



様々な「実り」

校長 細井博幸

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったものです。彼岸とは秋分の日9月22日を中日として、その前後3日間、合わせて7日間のことであり、まさに彼岸あたりからこれまでの残暑が嘘のように過ごしやすい日々となりました。今年の夏の6月～8月の平均気温は、2020年までの30年間の平均気温より、1.76℃高く、昨年と並び、過去最高の暑さとなりました。気温の変化に対する木々の反応も素早く、気温の低下に伴い学校周辺には落ち葉が目立つようになるなど、秋の訪れを感じさせてくれます。

秋と言えば、「〇〇の秋」というフレーズに触れる機会が増えます。インターネットサイト「みんなのランキング」(<https://ranking.net>)における「〇〇の秋」ランキングの1位は、「紅葉の秋」だそうです。都心における紅葉の見頃は、11月下旬～12月上旬とのことですから、まだまだ先と言えます。2位は、「食欲の秋」、3位は、「スポーツの秋」、以下「読書の秋」「睡眠の秋」と続きます。私にとっては、9



2年生が育てている菊

位にランクインしている「実りの秋」が一番当てはまるでしょうか。実家の栃木県那須塩原市では米や野菜を作っており、幼少の頃手伝っていた稲刈り(半ば遊びと言えますが…)が秋の思い出として強く残っています。「実り」というと「草木や穀物などが実を結ぶ」という意味がまず頭に思い浮かぶと思いますが、「努力してよい結果を得ること。成果を得ること」という意味もあります。明日、9月28日からは、さいたま市中学校新人体育大会が本格化します。6月を中心に行われたさいたま市中学校総合体育大会では、団体戦において初戦突破した部活動が、昨年度と比べ3倍の約7割に増える素晴らしい成果を得ました。これも最高学年3年生の「実り」と言えます。新人体育大会では、3年生は引退、1・2年生が参加します。過去最高の夏の暑さという厳しい環境の中で、努力を重ねてきた各部の取組が「実り」となって表れることを楽しみにしています。参加する選手の皆さんの健闘を祈っています。

また、11位にランクインしている「勉強の秋」では、先日、4月に実施された3年生の全国学力・学習状況調査の結果が発表となりました。本校は、全国平均と比べ、国語はほぼ同じですが、数学は大きく超え、過去3年間で最もよい結果となりました。学習においても、最高学年3年生の大きな「実り」が感じられました。

4月から始まった本年度も丁度折り返し地点となります。新学期から流れた時間は皆同じですが得られた「実り」はそれぞれ異なることでしょう。大切なことは、子どもたち一人ひとりが自身のこれまでの半年の「実り」を感じ、これから半年の「実り」の目標を持てることだと感じています。とはいえ、いいことばかりでなく、うまくいかないことも多くあると思います。気持ちが挫けてしまいそうになることもあるでしょう。落ち込んでいるお子さんの姿を見かければ、何かできないかと親としては考えることでしょう。まず大切なことは、「見守り」「そっと寄り添う」姿勢であり、原因を聞き出すのではなく、「話せるようになった声を掛けてね。」「いつでも話を聞くよ。」という言葉かけが大切なのだそうです。また、話をしてくれた際には、安易に「分かるよ。」と断定する言葉を使うのではなく、「分かってあげられたらいいのに。」という願望を伝え、共感することが大切なのだそうです。

学校教育においても、子どもの伴走者であることが求められています。子どもたちの主体性を大切にしつつ寄り添い、多くの「実り」を目指して後半戦も教職員一同頑張ってまいります。